



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japanese Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒213-8507 神奈川県川崎市高津区溝口 3-8-3
帝京大学医学部附属 溝口病院外科
TEL: 044-844-3333 (内線3223) FAX: 044-844-3222
発行者：山川 達郎
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部広報担当委員
村田 宣夫 (帝京大学溝口病院外科)
E-mail: nmurata@med.teikyo-u.ac.jp
印刷：株式会社 dig TEL: 03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

International Surgical Week 2011開催に向けて会員の結束を

万国外科学会日本支部長
(ISS/SIC Japan, Chapter National Delegate)

山川 達郎

帝京大学医学部名誉教授・京浜総合病院顧問



前月号でお知らせしたように、2003年10月1日、Chicagoにおいて開催されたISS/SICのExecutive Councilor Meetingにおいて、新しいPresidentにProfessor J. Rüiger Siewertが、またPresident-electに慶応義塾大学の北島政樹教授が正式に任命されました。これにより次回のDurbanにおけるISWは、昨年のBangkok meetingで会長を勤めるはずであったProfessor J. Rüiger Siewertが会長をつとめることが決定されました。従いまして、Durban MeetingでProfessor J. Rüiger Siewertの会長としての任期は満了となり、代わって北島政樹教授が会長に選出されて、2007年のMontreal Meetingを主催されることとなります。私ども、ISS/SIC日本支部会にとって、大変うれしい出来事であります。

さてISS/SICの最新Newsに掲載された前述したChicagoでのISS/SICのExecutive Councilor Meetingのminuteによりますと、2011年に再度、アジアで開催されることが理事全員に承認されていると記され、さらに日本がこれまでその招致に極めて強い熱意を示してきた実績が記載されています。さらにISWの招致を希望するChapterは、招致したい年度の5～6年前にその意思があることをPresidentに先ず表命すること、および4年前のISW時に開催されるECMで最終的に招致国を決定することが明記されています。したがって前回の日本支部会でも会員の意志を再確認させていただきましたが、北島政樹教授が会長を勤められるMontreal Meetingに焦点をあわせて、2011年に日本へのISW招致を目指して活動を開始いたしました。そしてISS/SIC本部にその意志のあることを、ISS/SIC, Former president 出月康夫教授、Former Executive Councilor比企能樹教授のご承認を得て、President-elect北島政樹教授と私の名前で正式に表明いたしました。(図)

しかしながらこれだけの伝統のある国際学会を行うことは並大抵のこ

とではありません。先ず出月康夫教授、比企能樹教授、北島政樹教授にご相談して若い有能な会長を早く選出して、その会長を中心にLocal Organizing Committeeを結成して少しずつ準備を進めてゆく必要があります。また現会員はsenior memberに昇格できる資格のある古くからの会員が多いので、もっとも若い会員を増やす必要があります。Singapore, Thailand, South Korea, Chinaなども立候補する可能性があることも想定されておりますから楽観は許されません。会員諸兄にはこの目的に向かって結束して下さることを心から願ってやみません。私も長く勤めさせていただいたISS/SICのNational Delegateとして、ISWの本邦での実現を夢見ています。今までの経験をもとに、準備委員の一人としてできる限りのお手伝いをさせていただく所存です。

International Society of Surgery (ISS) Societe Internationale de Chirurgie (SIC) Japan Chapter

Yasuo Idezuki
Former President, ISS/SIC

Yoshiki Hiki
Councilor, ISS/SIC

Tatsuo Yamakawa
National Delegate;
Japan Chapter, ISS/SIC

Masaki Kitajima
Secretary-Treasurer
Japan Chapter, ISS/SIC

Nobuo Murata
Secretary General
Japan Chapter, ISS/SIC

Nobuyoshi Miyajima
Assistant Secretary
Japan Chapter, ISS/SIC

Mailing address;
Japan Chapter, ISS/SIC
Department of Surgery,
University Hospital, Mizonokuchi
Teikyo University Sch. of Med.
3-8-3 Mizonokuchi, Takatsu-ku,
Kawasaki 213-8507
Japan
Phone: + 81 44 844 3333
Fax: + 81 44 844 3222

E-mail;
taejama@sepia.ocn.ne.jp

Professor Rüdiger J Siewert, MD
July 27th, 2004
President, ISS/SIC
International Society of Surgery
Netzbodenstrasse 34
PO Box 1527,
Ch-41133 Pratteln (Baselland)
Switzerland

Dear Professor Siewert

On behalf of Japan Chapter of ISS/SIC, we would like to submit the official letter to invite International Surgical Week, 2011 to Yokohama, Japan.

Over 25 years had been passed since the International Surgical Week was held in Japan. We have shown a keen enthusiasm to invite the International week once again to Japan for last several years. Our hope to host it was already mounted and we have confirmed the opinion of the member of the Japan Chapter of ISS/SIC to host International Surgical Week 2011 at Yokohama in Japan at the General Meeting of Japan Chapter of ISS/SIC held on April 8th, 2004 at Kyoto, and decided to start campaign to invite ISW 2011 to Japan, because, as you know, this is our longstanding desire.

As the venue of International Surgical Week for 2011, we would like to propose Yokohama city which is the second largest modern international city in Japan close to Tokyo. Yokohama, a lovely city with Yokohama port faced to Pacific Ocean, has served as the center of Japanese economics and culture. Accessibility to Yokohama from abroad is easy with one stop from Tokyo International Airport by limousine bus. Yokohama International Conference Hall named "Pacifico Yokohama" is one of the best conference centers installed new convention facilities, and the rich experience will be able to provide the best infrastructures for an international convention. Moreover active support from local government can be expected.

図；Official Letter to invite ISW 2011（略；後半）



万国外科学会の思い出

帝京大学医学部外科教授
冲永 功太

今回広報委員会の村田先生からのお勧めもあり、本ニュースレターに寄稿させていただきました。本会日本支部長が山川客員教授であり、村田教授も現在は当大学溝口病院におられますので、まさに因縁浅からぬ

関係にあります。私自身はもうかなり古い年代の仲間入りをしておりますので、本学会に関連して少し思い出話を書かせていただきたいと思います。

万国外科学会には恐らく1985年のパリにおける第31回学会に参加した時が最初と記憶しております。まだ帝京大学へ赴任してそれほど期間がたっていない時期ではありましたが、今にして思えば少しは余裕ができてきたためかとも思われます。このとき発表した演題は間葉性肝過誤腫に関するものでありました。その時どのような質疑があったかは全く記憶しておりませんが、その会でお会いした当時福岡大学第二外科の児玉好史助教授のことを思い出します。発表の内容が胃癌治療における脾臓に関する演題であったと思いますが、わたしも興味ありましたのでその

(2面へ続く)

（1面から続く）

発表を聞いておりました。夜の懇親会は確か以前牢獄であったか、あるいはお城であったか、地下のホールで行われました。そこで優秀演題が表彰されることとなりました。かなり騒々しい中で名前が読み上げられましたが、児玉先生の名前が呼ばれた時かろうじて私は彼の名前であることが聞こえましたが、どうも児玉先生は気づかなかったようでした。そこで表彰されていることを彼に告げたことを思い出します。当時私自身はまだ、四一会には参加していず、日本にいる間は面識がありませんでしたが、同じ昭和41年卒業ということで意気投合し、二次会に行くこととなりました。しかし二人ともフランス語ができませんでしたので、残念ながら期待していた“楽しい”場所に行き着くことはできませんでした。この出会いには後日談がありまして、この学会の後児玉先生はその年に手術を受けられ、悪性リンパ腫としてその翌年には急逝されたとうかがいました。あまりにも急な出会いと別れを経験いたしました。

もう一つの思い出は、Dr. Joseph Solomkinとの再会でした。これは1989年トロントにおける第33回学会の折、参加者の中に知った名前がないかとみておりましたところ、彼の名前を発見しまして再会することができました。私はアメリカミネソタ大学外科に1976年から1979年まで留学しており、その期間臨床でレジデントと一緒に仕事をする期間がありまし



写真1. Dr. Joseph Solomkinの講演終了後（1985年）



写真2. トロントでの夜の懇親会（1985年）
（船曳教授、戸部教授、韓国Kim教授、長尾教授）

た。彼はシニアレジデントとして4か月間小児外科をロテートしておりました。この期間を一緒に手洗いして当時のスタッフであったDr. Arnold LeonardやDr. John Fokerと手術をし、彼の自宅を訪れたこともありました。10年ぶりの再会でした。その後はご存じの方もおられるかも知れませんが、外科感染に関連して私自身も彼を学会の講演者として招請し、またいろいろな先生方を通して毎年のようにわが国で講演をしております。また、現在まで親しい友人関係が続いております。

国際学会の役割は、国際的な学問や専門領域の研究成果や知識の交流を通じて、さらに各領域の発展に寄与することを目的としていることは当然であります。広く各国の人々と直接接することができること、国内学会ではあまり親しくない方でも、海外の学会では限られた人数のため、国内では考えられないような親しい関係が得られることが国際学会の効用かと思っております。これからの若い先生方もおおいに国際学会に参加され、学問的な面を追求されるとともに、よき友人を得られる機会としても活用されることをお勧めしたいと思います。



国際学会の思い出

宮崎大学医学部外科学第一講座 教授
千々岩 一男

会員の先生方におかれましては益々ご清祥のことと存じます。

さて、今回万国外科学会日本支部のニュースレターに寄稿するようにとの話が小生にありました。簡単に自己紹介させていただきますと、私は1975年九州大学医学部を卒業、九州大学第一外科に入局し、九大助教授を経て、現在宮崎大学第一外科に勤務しております。消化器外科、中でも肝胆膵疾患の外科治療をメインテーマに仕事をしております。

私の国際学会での最初の発表は、1982年の第83回アメリカ消化器病学会(AGA)でのポスター発表でしたが色々な人と discussionしたのが思い出されます。口演は、1990年香港でのIHPBA、1992年 San Francisco におけるAGAなどが最初です。1992年のサンフランシスコでの発表は、雲仙高原で普賢岳が噴火し多くの犠牲者を出した年と記憶しています。このアメリカ消化器病学会の口演では、座長から紹介され、マイクを胸につけ

てもらって発表とあいなったわけですが、口演が終了する頃に会場を見回しますと、あちこちのマイクの後に何人かずつ並び始めたではありませんか。時間は討論も入れてゆっくりと30分近くとってあり、質問の英語がうまく聞き取れるかギリギリとなったものです。質問は南部なまりあり、英語が母国語でない人などさまざまでしたが、幸い3年間アメリカに留学していたこともあり、何とか質疑応答を終えることができました。しかし、内心は早く時間がきてくれ、座長もいかげんで止めてくれと思っていた気がします。その後もAGA(DDW)を中心にIHPBAやISSなどで発表してきました。外国の国際学会で発表する第一の意義は、全世界の人に向けて英語で自分の成果を発表することによる情報発信と、その分野で仕事をしている多くの人との討論を通じた出会いにあると思います。多くの友人ができますし、また教室の若い人達の留学の機会も開けてきます。私も、多くの研究室の人達をこの出会いを通じてアメリカに留学させてきました。

外科の国際学会もいろいろ発表出席させて頂きましたが、万国外科学会の中で記憶が鮮明によみがえるのが、1993年香港であった 35th World Congress と1995年 Lisbonであった36th World Congress で、両方とも口演しました。香港の時は同じセッションの発表者が来ていなくて司会者からゆっくり時間が取れるということで長いdiscussionになったこと、豪華に輝く船上でのパーティ、それにホテルのエレベーターが途中で止まり10人近く乗っていたのですが、救出までの間息苦しくなった気がして

（3面に続く）

（2面から続く）

んなで力を合わせて救出に向け頑張ったことです。1995年リスボンの時は4つの発表をかかえ4～5人でアムステルダムから深夜にリスボンに飛行機で入ったのですが、先ず日付変更による連絡ミスのためかホテルの予約開始が1日後になっていてあわてました。幸い部屋は空いていましたので何とか交渉して泊めてもらいました。口演発表よりも、リスボンで蟹や南蛮漬けがおいしかったこと、公園でのパーティーでイワシかサンマか忘れましたが日本にあるような食事が出て、江戸時代からの南蛮貿易による交流を感じさせました。この学会には慶応大学の北島教授、北里大学の比企教授、東京大学の幕内教授などもご出席されていたと記憶していますし、国際学会を日本に誘致すべく頑張っておられたのが思い出されます。

日本で国際学会を開催する意義は、専門領域の多くの外国の方と討議し親交を深めるのは勿論、日本の医療レベルや保険制度を含めた医療制

度、日本の文化などを理解してもらう絶好の機会だと考えます。最近、東京女子医大の高崎教授や帝京大学の高田教授がIHPBAを東京で開催され、教室員の英語での発表と私も司会の機会を与えて頂きました。また今年、松野教授が国際膵臓学会を仙台で開催され出席いたしました。両学会ともに非常に活発で有意義な学会だったと思います。

若い会員の先生方には是非、国際学会で発表して色々な国を訪問することによって色々な文化を肌で感じ、多くの人達と知り合って頂きたいと思います。また、英語での論文を発表することにより、相手に自分の名前を覚えてもらっておくと会話もはずむのではないのでしょうか。英語での論文は多くの人達が読んでくれているのを実感しました。外科医は多忙な毎日です。国際学会発表で外国に行くと携帯電話から解放されるのも一つの魅力でしょう。この拙文が、若い先生方に日本から沢山の情報を発信して頂く一助になれば望外の喜びです。

第17回 万国外科学会 日本支部会 議事録

日 時： 2004年4月8日木曜日 午前7時30分から8時30分
会 場： リーガロイヤル大阪 菊の間

出席者： 22名

大谷 吉秀、 加納 宣康、 上西 紀夫、 北島 政樹、
北野 正剛、 清水 一雄、 白日 高歩、 杉原 健一、
鈴木 眞一、 高見 博、 田尻 孝、 田中 雅夫、
中川原儀三、 梨本 篤、 西田 俊朗、 野口 志郎、
林 四郎、 比企 能樹、 平山 廉三、 松本 純夫、
村田 宣夫、 山川 達郎

（五十音順、敬称略）

議 事 録

- 1 日本支部長挨拶
- 2 前回のreview
- 3 庶務報告

会員数 268名

内 訳	アクティブメンバー	244名
	シニアメンバー	23名
	名誉メンバー	1名
	（入会2名）	

- 4 2003年決算報告および2004年予算案
共に承認
- 5 日本支部ニュース17号発行

CHUGAI 中外製薬
Roche ロシュグループ

5-HT₃受容体拮抗型制吐剤

劇薬、指定医薬品、要指示医薬品^注

カイトリル®
KYTRIL® 塩酸グラニセトロン製剤

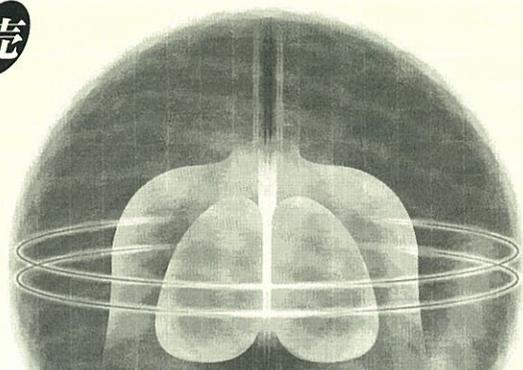
注) 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

（資料請求先）
輸入製造発売元 中外製薬株式会社
〒104-8301 東京都中央区京橋2-1-9

2004年8月作成

新発売



好中球エラスターゼ阻害剤

指定医薬品
要指示医薬品^注

注射用 **エラスポール**® 100

シベスタットナトリウム水和物

ELASPOL®

注) 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること。

薬価基準収載

● 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、
詳細は製品添付文書をご参照ください。

製造発売元
資料請求先



小野薬品工業株式会社

〒541-8526 大阪市中央区道徳町2丁目1番5号

030601

万国外科学会への入会案内 — 事務局から

万国外科学会 (ISS/SIC) では今会員の新規加入を勧めています。わが日本でも多くの外科医に会員になっていただきたく、日本支部では広報活動を行っています。このニュースレターは万国外科学会 (ISS/SIC) に入会されている日本支部の先生方に配布すると同時に日本国内の学会に参加されている医師、国際学会に興味を持っていらっしゃる先生方等にも配布しています。今回、万国外科学会 (ISS/SIC) の活動、入会方法などについて説明します。

万国外科学会 (ISS/SIC) のPresident は現在ドイツのJ. Ruediger Siewert教授です。かつては日本の出月康夫先生 (当時埼玉医科大学教授) もpresident をなされたこともあり、また現在は慶応大学の北島政樹教授がpresident elect をなされています。世界には万国外科学会 (ISS/SIC) の支部を置いている国がいくつかありますが、日本にも支部があり、その支部長は山川達郎先生 (帝京大学名誉教授) がなされています。日本支部はアメリカに次いで会員数の多い国です。

来年8月に南アフリカのダーバンで行われる万国外科学会学術集会 (international surgical week: ISW) を皆さんはご存知だと思います (ポスター)。学術集会は2年に1回 (8月下旬) 開催されます。開催地は偏りがないように世界を数ブロックに分けて順番に巡っていきます。オリンピック開催国の決定と同じような方法です。昨年(2003年)はアジア地域で開催されることになっていました。タイのバンコックで開催予定でした。しかし、残念ながらSARS騒動で中止となりました。したがって次回の学術集会は前々回の2001年のベルギー・ブラッセルから4年目の開催ということになります。ダーバンの学術集会についてはインターネットで詳細がわかります。ウェブページは www.isw2005.org.za です。一度ご覧ください。演題の申し込み期限は2005年1月9日です。万国外科学会 (ISS/SIC) 会員でなくとも参加できます。

その次の万国外科学会 (ISS/SIC) 学術集会は2007年8月にカナダ・モントリオールで開催されることが決まっています。

さて万国外科学会 (ISS/SIC) の会員になりますと年会費を160ドル支払う義務が生じます。しかし会員には現在インパクトファクターが上昇中のWorld Journal of Surgeryが配布されます。また学術集会に出席される方であれば、2年に1回行われる学術集会の時の登録料が安くて済みます (表)。会費に見合うメリットがあります。

今、万国外科学会 (ISS/SIC) の日本支部では学術集会を近いうちに日本に誘致しようと考えています。日本ではかつて第27回の万国外科学会 (ISS/SIC) 学術集会を1977年9月に京都で開催したことがあります。日本国内の組織を見ますと、大会会長が小沢凱夫先生、組織委員長が斎藤渥先生、財務委員長が島田信勝先生、学術委員長が石川浩一先生、運営委員長が綿貫詰先生、渉外委員長が駿河敬次郎先生など著明な先生方で運営されていました。国際学会の開催には多くの方々の協力が必要であるということを示しています。前回の日本開催から25年以上経ち、日本で再び開催しようとする機運が高まっています。国際学会に関心のある若い先生方に会員になっていただき、ご協力をお願いする次第です。

会員登録をご希望の方は下記の日本支部事務局に電話あるいはFAX、メールしてください。登録用紙をお送りします。推薦人が二人必要ですが、日本支部の方に任せていただいても結構です。

ISWにおける登録料

CATEGORY	Until January 31, 2005	Until April 30, 2005	After April 30, 2005
ISS/SIC Members Only	_UR 570.-	_UR 685.-	_UR 800.-
General Registration	_UR 685.-	_UR 800.-	_UR 915.-
Trainees / Residents	_UR 350.-	_UR 350.-	_UR 400.-
Accompanying Person	_UR 145.-	_UR 145.-	_UR 170.-

連絡先:

〒213-8507
神奈川県川崎市高津区溝口3-8-3
帝京大学溝口病院外科内
万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局
TEL: 044-844-3333 FAX: 044-844-3222
e-mail: nmurata@med.teikyo-u.ac.jp

**International Surgical Week
ISW 2005**

41st World Congress of Surgery of ISS/SIC

Congress President
J. Rüdiger Siewert, MD, Munich, Germany

21-25 August 2005
Durban, South Africa

www.isw2005.org.za
Deadline for abstracts: 15 December, 2004

Scientific Secretariat ISW 2005
c/o ISS/SIC
Netzbodenstrasse 34
P.O. Box 1527
CH-4133 Pratteln
Switzerland
Tel: +41 61 815 96 67
Fax: +41 61 811 47 75
e-mail: surgery@iss-sic.ch

Congress Secretariat ISW 2005
Turners Conferences
P.O. Box 1935
ZA-Durban 4000
South Africa
Tel: +27 31 332 14 51
Fax: +27 31 368 66 23
e-mail: info@isw2005.org.za

ダーバン学術集会のポスター、下はロゴ



プロトンポンプ・インヒビター
指定医薬品 **タケプロン**® カプセル15・30
OD錠15・30
(ランソプラゾールカプセル&口腔内崩壊錠)

■効能・効果、用法・用量、禁忌・使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

Takepron® ■薬価基準: 収載

武田薬品工業株式会社 〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>



オキサセフェム系抗生物質製剤
指定医薬品、要指示医薬品^{注1)}

フルマリン®
静注用0.5g・1g, キット静注用1g

注射用フロモキシセファトリアム Flumarin® 略号 FMOX
注1) 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

■薬価基準収載 ■「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌」、「原則禁忌」、「使用上の注意」等については添付文書をご参照下さい。®:登録商標

(資料請求先) 塩野義製薬株式会社 〒541-0045 大阪市中央区道修町3-1-8 **シオノギ製薬**